

「アレルギーの臨床」に寄せる — 860 — ヘバーデン結節の治療

【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所 渋谷区代々木開業医
山脇 昂

はじめに

整形外科医の間では治らないと常識化し、教科書にも数行程度の解説しかないことが多く、世界でも治す手立てがなく放置するか、外科的にX状に針金をDIP関節を貫いて挿入し強直固定してしまうかしか無いといっても過言ではない疾患です。

1. 目的

この療法はヘバーデン結節に有効と思います。指DIP関節の捩れ変形屈曲硬化は長年進む経過で不可逆性の変化です。進行を遅らせたり、元に戻すという報告は現在までありません。変形性膝関節症の成り立ちとほぼ相似していると言われていました。指先を直伸展形に保つ微妙な靭帯機能は失われてしまえば、元には戻りませんが、強張りはとれ、楽になったといえます。字が書けなくなっていた教師は字が書けるようになり、雑巾を絞れなかった主婦は絞れるようになり、痛くてピアノを弾けなくなっていた音楽教師は再び弾けるようになりました。指先の冷えがなくなり助かったという人もおりました。この冷えがなくなると言う事が一番基本的で大切なのです。なりたての変形は元に戻ります。このことは患者さん自ら発見し、私に報告してくださいました。それから私はヘバーデン結節にYITをやりだしました。

2. 対象と方法

アレゲンエキス5種(ハウスダスト・猫毛屑・ダニ・カンジダ・スギ花粉又はカモガヤ又はブタクサ)各々に水とグリセリン半々の希釈液(鳥居)を用い超微希釈し、ノイロトロピンも超微希釈し、計6種を、罹患DIP皮内両側に別々に0.001～0.005cc皮内注射し、4mm前後のクワデルを作ります。方法は皮内テストと同じです。局所の発赤計測はしません。打たれた患者さんはかなりの持続痛を訴えます。この持続痛が直す力なのだと思います。皮内注射中から腸の蠕動運動亢進音が聞き取れます。反射の連関性があるものと思います。両前腕皮内にも3個ずつやります。腰痛・肩こり等ある人には腰部・首・頸部・肩にもやります。直前直後の気分 血色 身長 眼裂の変化等

全身状態の変化を観察します。眼裂は大きくなり、視野が広がり、患者さんは眼前が明るくなったと言います。身長もYIT直前直後で変わる方もあります。姿勢の歪んでいる人は矯正され身長が5mm程度伸びます。緊張している人はリラックスし、5mm程度減る事も有ります。体が温かくなります。基礎体温が0℃～1℃上昇します。筋肉中の中性脂肪が燃焼するので、インシュリンを注射しても基礎体温は上昇しません。逆に低血糖症状に悩まされます。YITを継続的にやっていると、糖尿病とか高脂血症の人は、血液中中性脂肪が次第に減少してきます。次に血糖が減ってきて、3か月以上経つとHbA1cが減少して来ます。

ヘバーデン結節部に特徴的な小さなガングリオンを生じている方も居ますが、当該局部両側に皮内注射を加えます。ピアノ・弦楽器を弾かれる方が多く、指先に微風でも、ごく軽い突き指状態でも、飛び上がるほどの痛みがあった方が解消され、楽器が再び弾けるようになり、絶望感から解放され喜ばれます。

3. 結果

体力的にも改善され、手指の冷えや強張りごとれ、失ってしまった機能は回復しませんが、喜んで継続されています。DIP・PIP等の両側に皮内注射という強烈な刺激を与えることは、恐れをなして来院されなくなり中断する人も居ますが、翌日から脳の活性化に役買うようで、非常に喜ばれる方も居ます。

おわりに

この療法は筋肉中の中性脂肪を燃焼させ、ものすごいエネルギーを体内で発動させ、末梢循環改善を行っていることを物語り、そのトリガーとなっています。いまだ変形していない指の変形予防にもなります。中性脂肪の燃焼で、運動などできない人の運動代替療法になり、糖尿病の治療と予防になります。動脈硬化症治療予防に応用できると思います。漸次高濃度使用という減感作療法から出立した療法ですが、反対に超微希釈し多種使用のYITはもっともっとスケールの大きな療法になると確信します。EBMとは資本主義的多数決を利用する市場原理主義の医療版ですが、悪用すると由々しき事態になることを、EBMを提唱されたカナダのザケットという方が、最初から懸念されていました。生命現象には本来なじまないものではないかと思いますが、ヘバーデン結節でいえば自分で自分の指を観察していれば変化するのが分かるということです。つまり人間に対する治療はPCM(Patient Centered Medicine)であり、FBM(Fact Based Medicine)のはずです。英国等で行われているホメオパシーの注射版とも考えられます。